

《Q & A》

理 数 科 ・ 数 理 探 究 科

Q1 普通科の特色ある「理系コース」と「理数科」はどう違いますか？

A

まず、「理系コース」はあくまでも普通科におけるコースであること、「理数科」は専門学科であることが大きな違いです。

1年次から理科・数学を中心に計画的・継続的な教育を受けることは同じですが、「理数科」は普通科「理系コース」に比べて理科の学習時間が多く、また、普通科「理系コース」では、例えば、理科で「化学基礎」や「化学」を学ぶのに対して、「理数科」ではより専門的に深い学習を行う「理数化学」を学びます。

また、大村高校に設置した「数理探究科」では、理数科としての学びに加えて、地域の病院・企業・研究所等と連携した実習や体験活動を通じて、地域医療や科学技術分野で活躍できる人材育成を目指しています。

Q2 将来、理系分野への進学を考えています。理数科を含めどのような学科を選択すればよいでしょうか？

A

理系の分野への進学を考えた場合には、次の3つの選択が考えられます。

- ① 普通科の理系コース以外のクラス（いわゆる普通科の普通クラス）に入学し、1年次はみんなと同じ学習を行い、2年次から理系のクラスで学習する。
- ② 普通科の理系コースに入学し、1年次から理科や数学を中心に計画的な学習を行う。
- ③ 理数科・数理探究科に進み、普通科より時間（単位）数の多い理科や数学を計画的に深く学習する。

総 合 学 科

Q3 「総合学科」とはどういう学科ですか？

A

総合学科は、普通科と専門学科を総合した新しい第三の学科として誕生した学科です。

普通科目から専門科目までたくさんの科目が幅広く用意されているので、進学にも就職にも対応できるとともに、自分の勉強したい科目や進路希望に応じた科目を数多く選ぶことができる学科として人気を集めています。

Q4 「総合学科」はどういう人に適しているのですか？

A

次のような人が志願していると考えています。

- ① 多くの科目の中から、自分の興味や関心のある科目を選んで、専門的な勉強をしたいと思っている人。
- ② 将来は就職希望で、自分がやりたい仕事に役立つような科目をたくさん選択して、知識・技術をしっかりと身に付けたい人。
- ③ 進学希望で、高校で多くの科目の勉強を通して、大学・短大などの進学先や専攻分野を見つけたいと思っている人。
- ④ 高校卒業後の進路を進学か就職かまだ決めていないが、いろいろな勉強をして自分の進路を決めたいと思っている人。

Q5 総合学科では系列という言葉を使いますが、よくわからないので説明してください。

A

「系列」とは教科・科目のまとまり（グループ）を示したものです。例えば、英語を中心として「話す」「聞く」「読む」「書く」などの知識や技術を習得し、国際分野で活躍したい希望のある人に、希望を実現するために必要な教科・科目を取りまとめ（グルーピングして）「国際コミュニケーション系列」として示しています。なお、県下の総合学科高校にどのような系列があるのかは、各高校の学校案内などで確認してください。

単 位 制

Q6 単位制高校とはどのような学校ですか？

A

「学年制」を採用した学校では、各学年で学習すべき教科・科目を定め、その成果が認定されれば次の学年へ進むことを原則としています。これに対して、原則として学年という枠に関係なく、所定の単位を修得すれば卒業できるのが「単位制」です。

また、自分の適性や進路希望に応じて必要な科目を選択して学習できるシステムも「単位制」の特徴だと言えます。

現在、本県で単位制をとっているのは、全日制普通科の佐世保西高校、西陵高校、五島南高校、総合学科をもつ長崎鶴洋高校、長崎明誠高校、佐世保東翔高校、大村城南高校、平戸高校、五島海陽高校、島原翔南高校、清峰高校、及び定時制と通信制を設置している鳴滝高校、佐世保中央高校です。

Q7 全日制普通科単位制では選択する科目が多いそうですが、自分で選べるか不安なのですが？

A

1年次は全員が必ず学ばなければならない科目の学習が多いため、過度の心配はいりません。

2年次からは複数の類型に分かれ、選択した類型によって選択する教科・科目が違ってきます。1年次当初から計画的にガイダンスを行い、自分の適性や興味・関心に合った進路を見だし、類型の選択や科目の選択が不安なく行えるよう指導します。二人担任制（1クラスに二人の担任）を実施している学校もあり、生徒一人一人を大切に手厚くバックアップします。

Q8 全日制普通科単位制の学校では学級編制はあるのですか。また、全ての科目を学級の枠を超えて個別に授業を受けるのですか？

A

もちろん“学級”はあります。2年次から複数の類型に分かれますが、原則的に同じ進路希望を持つ人たちによる学級編制を考えています。なお、学校行事（体育祭・文化祭、校内競技大会等）では、学級が一致団結することが重要です。その意味でも“学級”は大切な集団の単位です。

全ての授業を学級を超えて行うわけではありません。科目によっては、学級単位で授業を行うこともあります。

なお、単位制の特長を生かした少人数教育や習熟度別（少人数）授業を多く取り入れます。例えば、同じ数学でも2クラスをいくつかの講座に分けて授業を行うなどします。

入学者選抜方法など

Q9 通学区域とは何ですか？

A

通学区域は、全日制普通科を対象として設けられており、生徒の居住地から志願できる高等学校を定めたものです。

現在の通学区域は、七つの学区と調整区域が設定されています。（「通学区域」のページを参照）

なお、通学区域外からも各高校全日制普通科を志願をすることができますが、入学はその募集定員の7%以内に限られます。

全日制普通科以外の学科については、設置数が少ないことなどの理由で通学区域は設けておらず、県内どこからでも志願することができます。

Q10 通学区域における調整区域とは何ですか？

A

調整区域とは、各学区内の高等学校のほか隣接する他学区の一部の高等学校も志願できる区域のことです。

通学区域の規定を変更した際に、従前志願できていた高等学校が他学区に属することになった地区や、他学区にある高等学校への進学率が高い地区を、調整区域として指定しています。

Q11

学校・学科の募集定員や進学希望倍率はどうしたらわかりますか？

A

県 HP で確認できるほか、中学校へ配布する公立高等学校入学者選抜実施要領を活用してください。
また、進学希望倍率については、7月、11月に調査を行い公表します。県教育委員会のホームページを通じてお知らせするとともに、各中学校へもお知らせしますので、学級担任の先生や進路指導の先生に尋ねてください。

Q12

前期選抜における作文と小論文はどのように違うのですか。

A

作文は、自分の体験や気持ちを述べるもので主観的なものを指します。小論文は、具体的な事柄について分析し自分の意見を述べるもので、客観的な視点と具体的な提案を含むものを指します。小論文は、特定の教科の学力検査に当たるもの以外で、課題式、資料読解式及び文章読解式等が考えられます。例えば、短い新聞記事等を読ませて小論文を書かせることは文章読解式に入ります。

その他

Q13

各高校の教育活動や学校行事などを知りたいのですが。

A

各高校では1学期からオープンスクールや一日体験学習の実施を計画しています。
夏休み等に開催する学校もありますので、積極的に参加してみてください。
また、各高校のホームページには、教育活動や学校行事に関する情報が掲載されていますので、併せて進路学習に生かしてください。
不明な点や疑問点は、各高校に遠慮なくお尋ねください。

Q14

2学期制の特長は何ですか？

A

2学期制は、学校の1年間の課程を前期と後期の2期に分けて行う制度で、一般的には4月から9月までを前期、10月から翌年の3月までを後期とし、間に秋休みを数日はさむ形で実施されています。
特長としては、学期ごとの定期考査や、始業式・終業式等の行事を減らすことができ、授業時間の確保ができること、3学期制に比べて学期の日数が長いため、継続した学習計画が立てやすいことなどが挙げられます。